

# 高齢化進む道路ストック

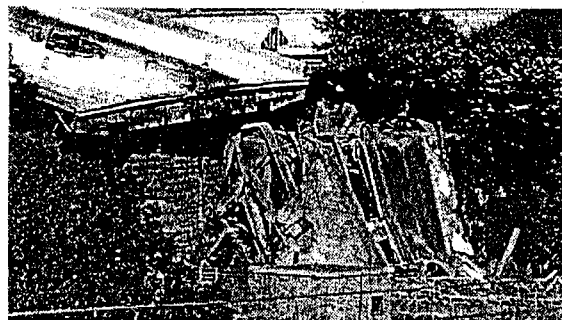
## 日本でも喫緊の課題

米ミネソタ州ミネアポリスでミシシッピ川に架かる建設後約40年の高速道路橋が崩落したこの衝撃的な事故は、日本でも起こり得るのだろうか。国土交通省によると、高速道路、直轄国道の橋梁1万5800橋（2006年時点）のうち、建設後40年以上の橋梁は約2割の2850橋あり、「定期的に点検し、必要に応じて修繕している」で崩落事故はあり得ない」（道路局国道・防災課道路保全室）と説明する。ただ、「地方自治体の生活道路については、十分な点検が行われてい

### 米・橋梁崩落事故

### 「予算確保に使命」 国交相

ミネソタ州ミネアポリスで崩落した高速道路橋



年後には約3倍の2万8400橋で20%を占め、20年後には約7倍となる6万6300橋の47%にまで膨れ上がり、80年代の米国と同じ状況に直面する恐れがある。その兆候は既に現れており、崩壊したミシシッピ川の橋梁と同じトラス橋の国道23号木曾川大橋

（上り・59年完成）で車道を支える鋼材の破断が6月に発見され、所管する中部地方整備局三重河川国道工事事務所が補強工事を行った。雨水などによる腐食が原因で、同橋（下り・66年完成）、隣接する掛梨長良大橋（上り・59年完成、下り・66年完成）の計3本でも破断には至らなかったものの、腐食が進行していた。

「政府の動きを見ながら、協会として何か役割を求められれば積極的に応じる」とし、「原因がまだ分からないので何もいえないが、橋梁の保全・管理が重要だということは今までも言い続けている。今後もメッセージを発し続けていく」との見解を示している。

橋梁など高齢化する道路ストックへの対応は喫緊の課題であり、社会資本整備審議会道路分科会（分科会長・小枝至日産自動車取締役共同会長）が6月に建議した「品格ある国土と快適な生活の実現に向けた道路政策」の中で、事後的損傷対応から事前の点検や調査に基づく予防保全への移行を提言している。

この建議を踏まえ、国交省では08年度予算概算要求に道路の点検、修繕に対する予算の増額を盛り込む方針だ。

このような状況下で発生した米国の橋梁崩落事故の原因については「構造的な欠陥」「金属疲労」などが指摘されているが現段階（3日現在）では